

2023年6月23日

## 福岡県産酒フェアの実施と今後の県産酒プロモーションについて

香港事務所長 波多野 直美

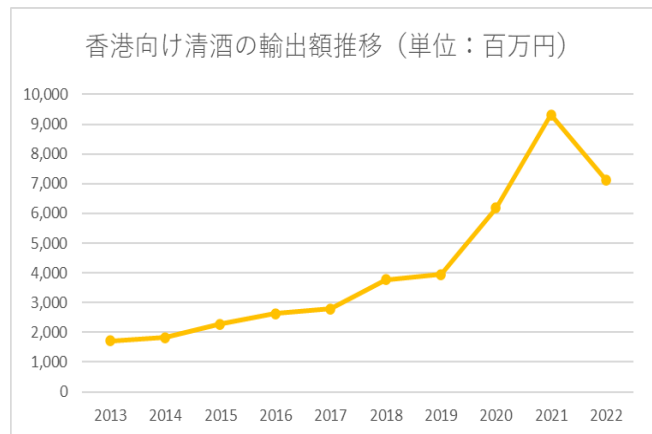
### 1. 県産酒フェアについて

香港向け清酒(日本酒)の輸出額は、過去10年のデータを見ると年々増加し、コロナ禍においても巣ごもり需要の影響で、2020年、2021年は大幅な伸びを示している(表1)。

一方、2022年は年初からコロナ第5波に見舞われ、伸び率は対前年度比でマイナスに転じたが、それでも輸出額自体は2年前を上回っており、継続的な日本酒人気が続いている。

しかしながら、香港において福岡県産酒の知名度は高いとは言えないため、当事務所では県産酒プロモーションのため、今年2月から3月にかけて、香港のレストラン2店舗で県産酒のペアリングフェア及びアンケートを実施した。

本レポートでは、アンケートで得た105件の回答を分析することで、県産酒の効果的なプロモーションについて考えてみたい。



【表1】清酒輸出額の推移  
(国税庁、財務省の統計資料から筆者作成)

### 2. アンケート結果について

アンケートでは、日本酒に関する飲酒習慣、購買行動、嗜好、飲みはじめたきっかけ等を尋ねることで、今後有効なプロモーションの手段を探ることとした。

#### (1) 回答者の属性、飲酒習慣、購買行動について

まず、回答者については、男性が約54%、女性が約46%で、20代~40代が回答者全体の9割以上を占めた。次に、日本酒の飲酒頻度については、「あったら飲む」と答えた人が最も多く(35.2%)、次いで「週1回」(20.4%)、祝い事や食事会で飲む(17.6%)であった。続いて、「どこで日本酒を飲むか」については、「日本料理店」(39.8%)が最も多く、「自宅」(27.7%)、「友人の家で」(23.8%)が続き、「日本料理店以外の飲食店で日本酒を飲む」と答えたのは、7.4%だった。さらに、購入する場所は日本酒のみを専門に

扱う小売店が最も多く（44%）、「スーパーや百貨店」（29.2%）、「オンラインショップ」（26.2%）がこれに続いた。なお、購入する価格帯は300～399香港ドルが最も多い結果となった。

## （2）日本酒の嗜好

好きな日本酒のタイプは、「フルーティーで甘い、香り高いタイプ」が28.6%、「米のうまみやコクを感じるタイプ」が28.1%、「清涼感あるすっきりした味わい」が27.2%で拮抗しており、嗜好の多様性を伺わせた。

また、日本酒を選ぶ際に最も重視していることは、「味わい」（23.6%）、値段（13.4%）、料理との相性（12.3%）、日本酒の酒類（11.5%）で、特定のブランドにこだわる人（5.36%）や原料にこだわっている人（4.56%）は少なかった。

## （3）日本酒を飲むようになったきっかけ

「日本酒を飲むきっかけ」は、「友人・知人の勧め」（41.5%）が最も多く、続いて「レストランで勧められて」（19.9%）、「店頭で試飲して」（16.5%）となっている。「SNS」（7.4%）や「テレビ・雑誌」（4%）といったメディアを見て日本酒を飲むようになった人は11.4%と少ない。国が行った調査でも新しい酒類を飲もうとする際に最も接触する情報源は「友人知人の口コミ」が最も多い結果となっており<sup>1</sup>、日本酒のプロモーションでは口コミの活用がポイントになってくると思われる。

## 3. 今後の県産酒プロモーションについて

アンケートの最後に設けた「今回のイベントに関する意見（自由記述）」では、店員による県産酒の詳しい紹介が評価されており、このようなフェアをもっと頻繁に、長期間実施してほしいという要望やフェアに対する高評価が目立った。ペアリングイベントは、店員の詳しい解説を聞きながら、実際に県産酒を料理と共に試することができるため、消費者のニーズに合致しつつ<sup>2</sup>、県産酒を印象付けることができ、さらに口コミによる拡散を期待することもできる。

今後も県産酒プロモーションのため、このようなフェアを定期的に、かつ長期間実施するとともに、バイヤーやフェアを担当する店員を産地に招へいし、県産酒に対する知識を深める活動も併せて実施していきたい。

※ 為替レート 1香港ドル≒17.8円

<sup>1</sup> 国税庁「令和2年度 海外主要国における日本産酒類の市場調査委託事業（区分 III・香港）」。

<sup>2</sup> 日系量販店のバイヤーによると、香港の消費者は「買い物で失敗したくない」という意識が強く、試しに飲めるような小容量の日本酒がよく売れるとのこと。